



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り

令和5年12月号

ヨハネスブルグ日本人学校

令和5年度2学期が終了! ご理解、ご協力ありがとうございました。

今年もあっという間に12月、師走を迎え終業式の時期となりました。師走とは、誰もが年の瀬をひかえて何かと慌ただしくなる時期で、どっしり構えて読経する師僧までも走り回らなければと思わせるほど多忙な月であるとされています。時間に関わる四字熟語には、「一寸光陰」ほんのわずかな時間も無駄にはいけないという戒めの言葉であったり、「一刻千金」わずかな時間が千金に値するほど大変貴重であるということを教示したりする言葉など、時間は大切に使うべきいけないということを意味する言葉がたくさんあります。今年も残すところ数週間となり、月日が経つのがとても早く感じられます。子供たちに時間を有効に使うことの大切さについて、機会を捉えて伝えていきたいと思えます。



特に、2学期は、運動会を始め、JICAの方々との国際交流、芸術鑑賞会、全校校外学習、ラッドフォードハウススクールとの国際交流、学習発表会、グリーンサイド小学校との国際交流、水泳指導など、限られた時間を日々調整しながら多くの学校行事を行うことができました。

振り返ると、子供たちと共に大切にしてきたことは、メリハリであったり、けじめであったりではないかと思えます。物事に対して見通しをもって取り組むことが重要です。学校生活だけではなく、家庭生活においても同じことが言えるのではないかと思えます。

子どもたちは毎日忙しく過ごしていますが、例えば上手に時間を使っている子どもは、委員会活動や担当の係活動などの自分に与えられた仕事に対し隙間の時間などに集中して取り組むことができ、その成果を上げることができ、さらに、遊びや自由に過ごす時間も十分にとることができ、けじめをつけることもできているので学習効果も上がっているように見受けられます。



これからも今までの積み重ねを生かし、上手に時間を使って、さらに伸びゆくヨハネスブルグ日本人学校の子供たちのために尽力していきたいと思えます。ご理解とご協力に、教職員一同、心からお礼を申し上げますとともに、皆様がよい年を迎えられますことをお祈りいたします。



終業式の式辞として、子どもたちに以下の話をしました。保護者の皆様にもご一読いただければと思います。

終業式 校長講話 一年の「節目」を大切に

今日で2学期が終わりです。そして、後18日ほどで新しい年となります。

今日は、この写真にまつわる話をしたいと思います。

この「竹」の話です。竹はこのように弾力があります。竹は空に向かって真っすぐ伸びる。しかし、雪が積もっても折れない、そんな強さがあります。



このような理由から、昔から様々な生活用具にも使われてきました。この竹の強さ、折れずに元に戻るこの「しなやかな強さ」は、この「節」があるからと言われています。この「節」に成長点と言うのがあって、それを基に一気に成長するそうです。また、この「節」があるから弾力性があり、折れにくく元に戻る「しなやかな強さ」が生まれると言われます。

この2学期、そしてこの一年どうでしたか。今日通知表をもらいますが、それはあくまで参考資料です。大事なことは自分自身で自分をしっかりと振り返ることです。良かったことは何か、頑張らなければならないこと、不十分だったことは何かをしっかりと振り返り、「節目」を大事にすることが、来年の新しい年の成長につながります。



また、「節」は年輪と同じように寒い冬の時期を耐えることによって太くなると言われます。それは、私たちにも全く同じことが言えます。楽しいことや楽をすることはばかり考えていると、成長を促す「節」はできないでしょう。苦しいことや辛いことがあっても頑張る、気分転換などしながらも努力していくことによって「節」が太くなることで、皆さんの成長につながります。そして、苦しいことがあっても耐えられる「しなやかな強さ」を身に付けていってほしいと思えます。

地道なことを繰り返す、基本の勉強や練習にしっかり取り組んでいくことが大きな「節」となり、来年の新しい年での大きな成長につながります。

それでは、よい「節目」を迎えてください。